



〒104-0044
東京都中央区明石町10-1
聖路加国際大学礼拝堂

TEL 5550-2416
TEL 5550-7043
FAX 5550-7070
E-mail: chapel@luke.ac.jp
URL: <http://nssk.org/tokyo/church/luke>



聖書を読む会

リモート (Zoom) で行っています。

第1・第3木曜日 午前10時 新約聖書 (上田司祭)

第2・第4火曜日 午後5時30分 旧約聖書 (関司祭)

ご関心のある方は、チャペルにお問い合わせください。

巻頭メッセージ

今日、神の声を聞いたら

礼拝案内

月・火・木・金曜日

■午前8時30分 朝の礼拝 トイスラーホール

水曜日

■午前8時30分 聖餐式 トイスラーホール

※第2水曜の礼拝は午前8時45分～

日曜日

■午前7時 聖餐式 トイスラーホール

■午前10時30分 聖餐式・説教 旧館チャペル

■午後5時 夕の礼拝 トイスラーホール

チャプレンメッセージ

今日、神の声を聞くな

司祭 シモン・ペテロ 上田憲明

毎週木曜日の朝七時から職員食堂に集まって、コロナになつてからは、インターネット配信による画面共有も用いながら、聖路加国際大学の教職員と共に、聖書を読み、お祈りする時間を持つている。今は、ちよつとずつヘブライ人への手紙を読み進めている。出てくるお話は、教会関係のことというか、宗教的なお話なのだが、教職員の人たちが、自分の日常のことといるる繋げながら、疑問を出してくださったり、納得してくださったりする様子がうかがえて、新鮮な思いで関わらせていただけているのが、恵みだなと思う。そのヘブライ人への手紙の始めの方で何回か、詩編九十五編七〜十一節が引用されている。特に心に残るのが、「今日神の声を聞くなら……心をかたくくにしてはならない。」という言葉。イスラエルの民はエジプトを出る時も、荒野でも、何度も神さまの奇跡に触れる。しかし、というか、だからこそというか、神さまの恵みを受けて今、ここに居られることが当たり前になり過ぎて、困難なことや不安なことが起こつてくると、これはどうしたらいいのかとパニックになり、神さまとの間を取り持つてくれているモーセやアロンに文句をぶつけてきて、場合によっては、殺しかねないほどの勢いで迫ってくる。それをみかねて、神さまは心を痛めながらも、民のために、モー

セやアロンのために、奇跡を行なつてくださるのだが、それは果たして、良かったことなのだろうか？と神さまが考え直しておられる様子が旧約聖書に記されている。その辺りを受けて、ヘブライ人への手紙を書いた人は、この言葉を単なる昔の出来事として終わらせるのではなく、今、神さまの恵みや祝福をイエス・キリストを通して示されている私たちこそ、心に留めておくべき言葉として、繰り返し語っているのだろう。神さまの恵みや祝福を受けていることを、感謝し喜びの生活の中で、その神さまにどう応えていこうとするのが問われているのかもしれない。厳しい現実だけを見て心をかたくしてしまうのではなく、感謝と喜びの中で、心を柔らかくして現実にもう一度向き合うことを励まされることが必要と私たちに教えてくれているようにも思う。

私ごとになりますが、二〇〇三年から（途中二年半ほど介護離職のため離れたので）、正味十八年ほど、チャプレンとして働かせていただいた聖路加をこの四月から離れます。今までの皆さまとの主にある交わりに感謝しております。どうぞ、これからも聖路加のハートとして、聖ルカ礼拝堂が祈りの鼓動を続けてくださるよう願っております。